

環境に優しいリデュースの仕組み



2021年9月
株式会社エフピコ
環境対策室



【免責条項】



平成27年度
地球温暖化防止活動に功大臣表彰



持続可能な開発目標 (SDGs)

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。**「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会**の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**。(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている。)



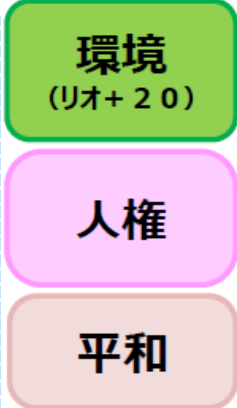
- 普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」
- 参画型** **全てのステークホルダーが役割を**
- 統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**
- 透明性** **定期的にフォローアップ**

前身：ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- ▶ 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
- ▶ 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。

(①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)

- ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
 - 極度の貧困半減 (目標①) やHIV・マラリア対策 (同⑥) 等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減 (同④、⑤) は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ。



持続可能な社会の実現に向けた取り組み

エフピコが実践するESGは国連が提唱するSDGsとも密接に関係しています。事業を継続して推進することが、社会活動に参画し、住みやすく生きがいのある社会の創造をお手伝いすることでもあるという意識をエフピコは持ち続けたいと思っています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



ESG	エフピコグループの重要課題	主な取り組み	対応ページ	貢献するSDGs
E 持続可能な 社会の構築	GHG排出量削減 資源・エネルギーの効率的な利用 プラスチックごみ問題の解決	「リサイクルでカーボンオフセット宣言」	40	4 気候変動に具体的な対策を、7 持続可能なエネルギーを
		エフピコ方式リサイクルの拡大	42	12 持続可能な消費と生産
		リサイクル工場見学	42	13 気候変動への適応
		出張講座	42	15 陸域生態系の保護
S 社会の食の インフラを支える	リスクマネジメント	生産・物流におけるリスクマネジメント	46	2 気候変動に具体的な対策を、3 気候変動に具体的な対策を
		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	46	8 豊かさを増進させ、持続可能な消費と生産
	安定供給	関西圏における大型生産・物流拠点の新設	47	12 持続可能な消費と生産
		製品供給の全国ネットワーク	48	8 豊かさを増進させ、持続可能な消費と生産
G 「いい会社」 の実現	コーポレートガバナンス	透明性の高い経営	49	3 気候変動に具体的な対策を、4 気候変動に具体的な対策を
		コンプライアンス研修等の多彩なプログラム	49	5 持続可能な消費と生産
	働きがいの向上	単身者用社宅「ピコハウス」の整備	50	8 豊かさを増進させ、持続可能な消費と生産
		各種社外活動のサポート	50	5 持続可能な消費と生産
	人材マネジメント	人材育成のための多彩なプログラム	49	10 人や国の不平等をなくす
		女性の活躍推進	50	16 平和と公正
インクルージョンの推進	障がいのある人材の活躍	51	17 パートナーシップで目標を達成しよう	
	フロアホッケー活動	52	17 パートナーシップで目標を達成しよう	



歴史

- 1980年 広島ゴミ問題
- 1990年 米国 マクドナルド不買運動
- 1990年 エフピコ方式のリサイクル開始
- 1992年 「エコトレー」の販売開始
- 1995年 容器包装リサイクル法制定
- 1997年 京都議定書
- 2008年 透明容器のリサイクル開始
- 2011年 PETボトルのリサイクル開始
- 2012年 「エコAPET」の販売開始
- 2015年 パリ協定

容器包装から
紙包装へ変更

導入当初

6店舗

回収拠点

福山市・大阪市
からスタート

約30年

2021年3月末時点

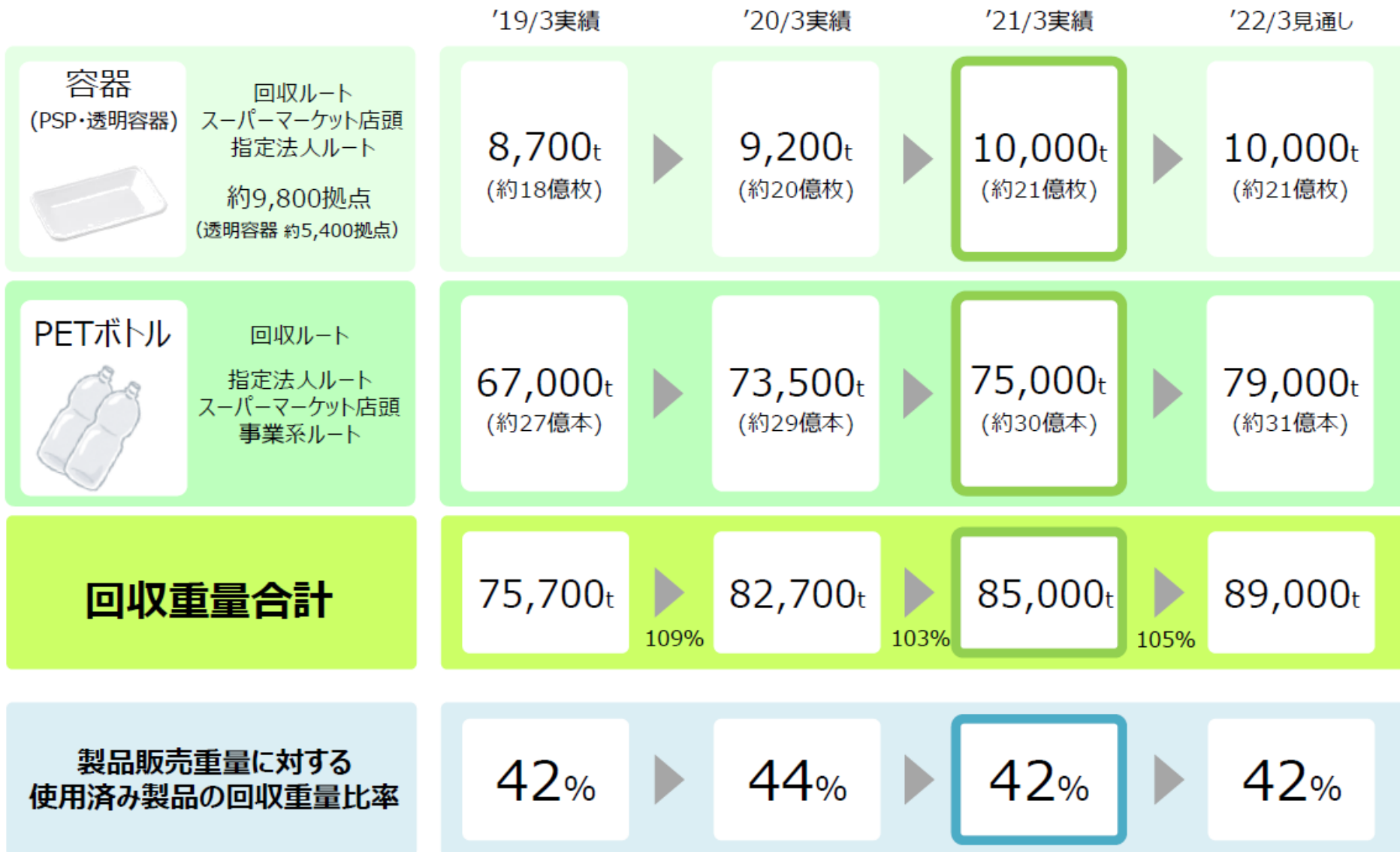
約9,800拠点



プラスチック資源の回収

※枚数・本数換算は、標準的なグラム数にて算出
 発泡トレイ：約4g、透明容器：約10g、PETボトル：約25g

回収重量



エコトレー・エコAPET CO2削減効果

CO₂排出量

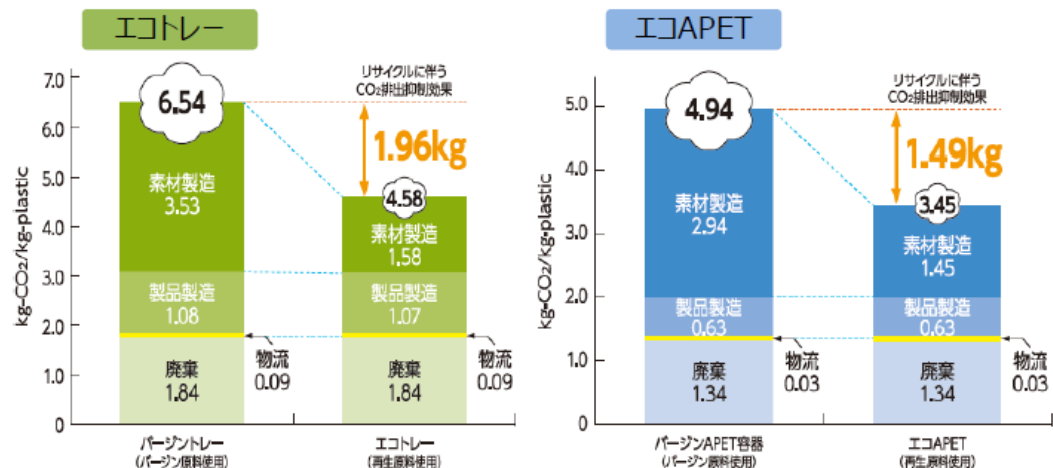
-30%



2021年3月期 CO₂排出量

年間**17万t**削減

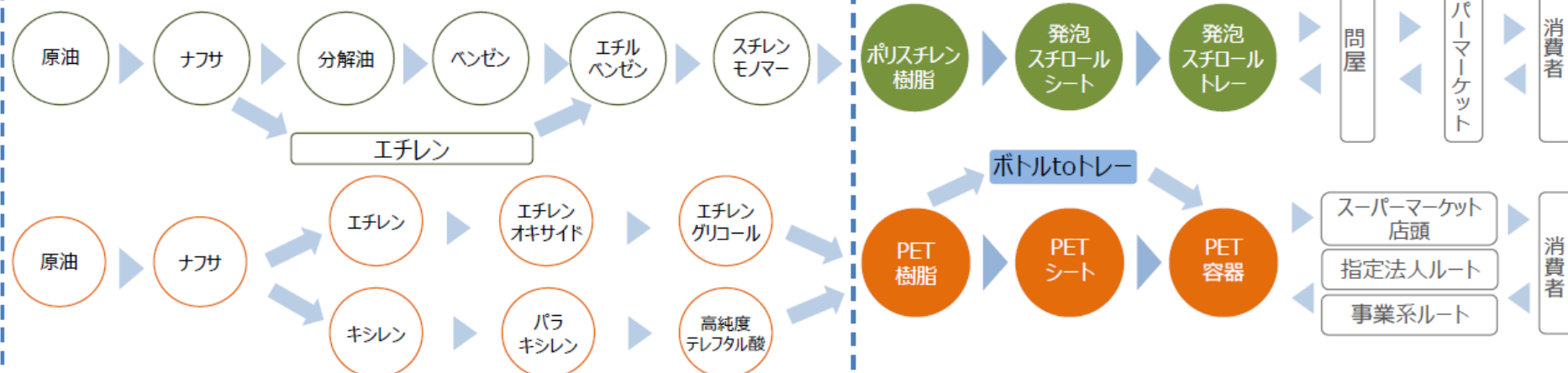
(エコトレー 4.0万t/エコAPET 8.6万t/エコPET 4.4万t)



エピック製品のLCA (ライフサイクルアセスメント) 比較

「エピック方式」のリサイクルで省ける工程

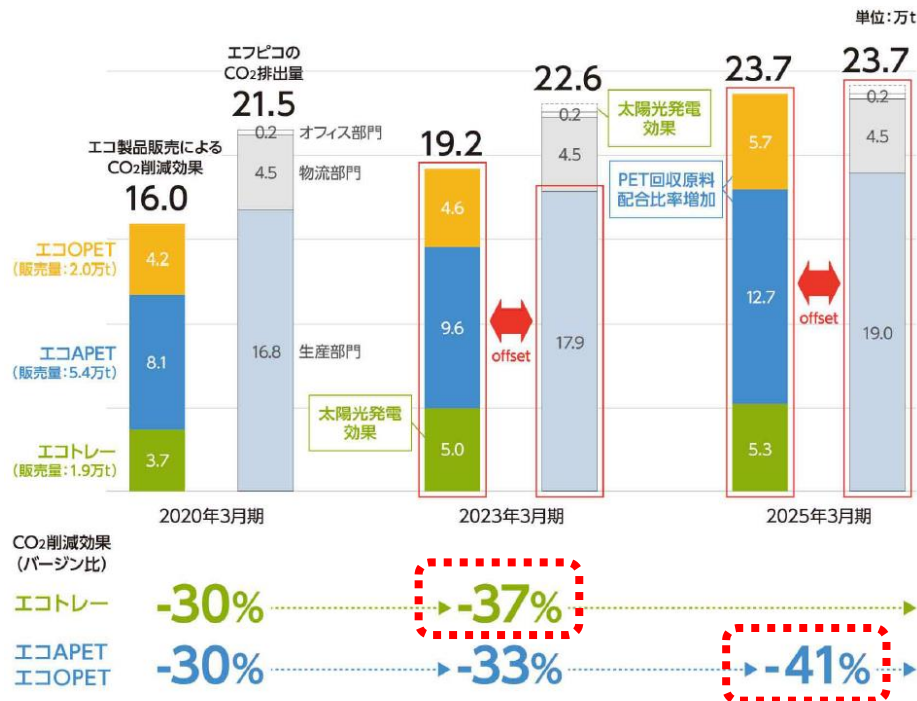
CO₂を**30%**削減できる



リサイクルでカーボンオフセット宣言

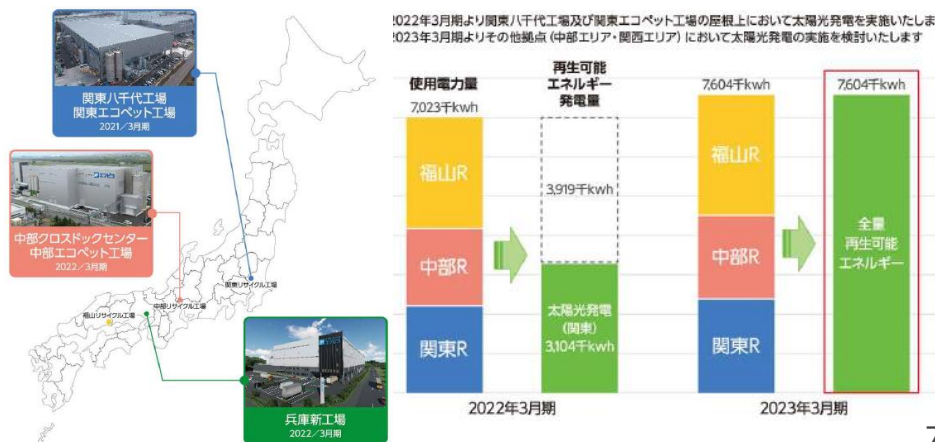
I. 自社エコ製品(エコトレー、エコAPET、エコOPET)の販売によるCO₂排出削減量を
2023年3月期までに19.2万t(2020年3月期比+20%)に増やし
生産部門で発生するCO₂排出量をオフセットします

II. 自社エコ製品(エコトレー、エコAPET、エコOPET)の販売によるCO₂排出削減量を
2025年3月期までに23.7万t(2020年3月期比+48%)に増やし
全社(生産・物流・オフィス)で発生するCO₂排出量をオフセットします



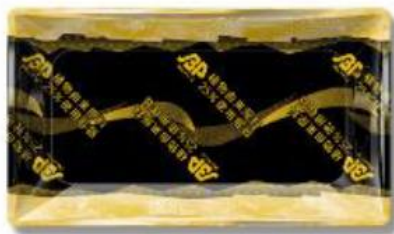
宣言達成に向けて

- 使用済みPSPトレー、PETボトルの店頭での回収量増大によりエコ原料調達の拡大を図ります
- 使用済みPSPトレーのケミカルリサイクル導入による再生材の活用拡大を検討いたします
- 再生可能エネルギーを積極導入することによりCO₂排出量削減を図ります
- エコAPET、エコOPET製品の回収原料比率を高めCO₂削減効果の増大を図ります



新素材

バイオマスプラスチック
(植物由来)



紙・パルプモールド

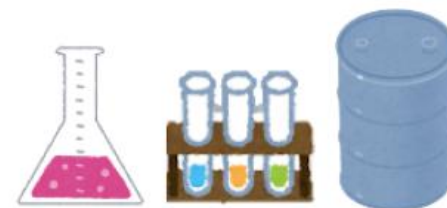


リサイクル技術

マテリアル
リサイクル



ケミカル
リサイクル



バイオHIPS



輝皿

CO₂排出量
-5.75%

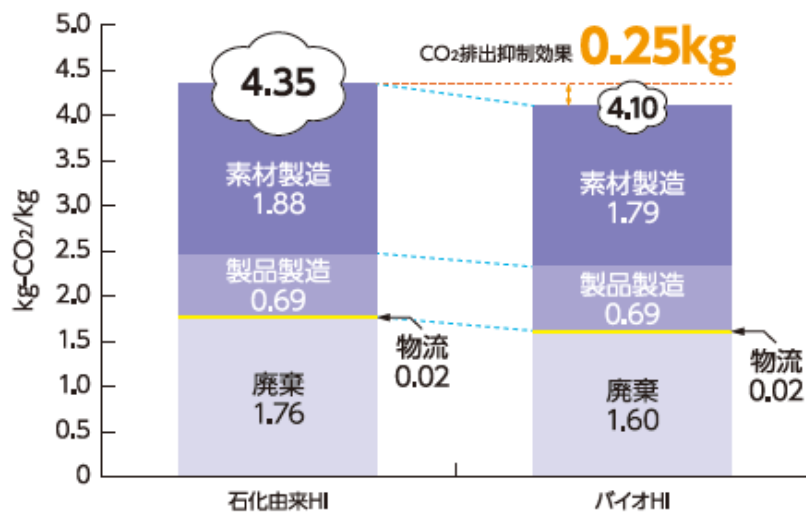
バイオPPF



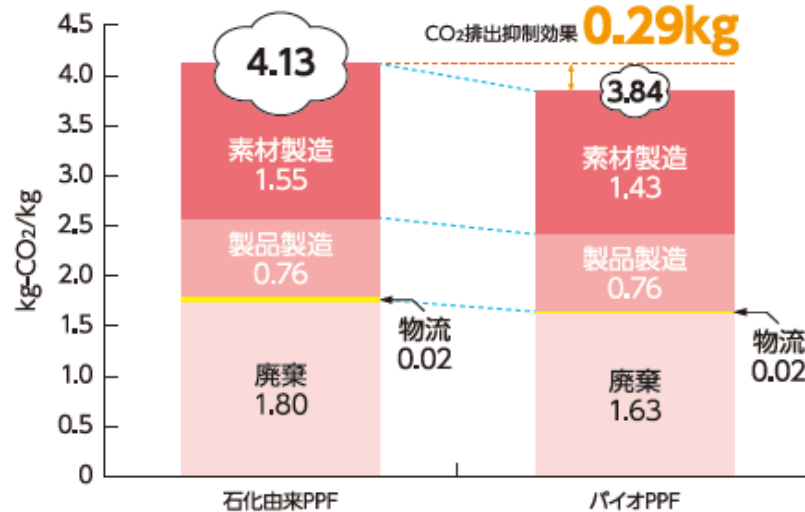
FTセレクト

CO₂排出量
-7.02%

石化由来HIとバイオ由来HIのCO₂排出量の比較



石化由来PPFとバイオ由来PPFのCO₂排出量の比較



植物由来原料を**25%配合**
日本バイオプラスチック協会に登録完了



2021年
4月～

紙トレイ



2021年
5月～

紙容器



※エピックチューパ製品、一部仕様変更あり

関東つくば工場
紙トレイ・紙容器
生産ライン導入



製品特徴

FSC®認証紙を使用



FSC®CoC認証
(FSC®C163782)を
全事業所及び紙トレイ
製造工場にて取得済み

耐水・耐油仕様



ラップ包装機に対応

